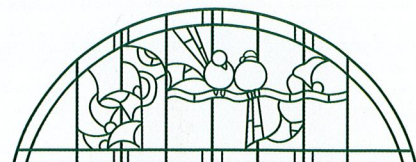


和日館木槿

しゅもくかんびより ◆ 第十一号



文化のみち槿木館
Cultural Path Shumokukan

発行日: 2015年3月29日

発行: 文化のみち槿木館

指定管理者: 特定非営利活動法人槿木倶楽部



「ろまん」浪漫建築

古い建築物の前に立つと、憧れのような不思議な気持ちが芽生えます。
そこで営まれた有名無名の人々の暮らしや仕事、
その運命までも想像させる古き良き時代への憧憬です。
(2面「ドイツ人アーティストが見た名古屋の近代建築」より)



作品タイトル「文化のみち槿木館」

写真上: 杉野順子(ペーパークラフト)

左下: クレメンス・メッツラー(イラスト)

右下: 近藤美和(イラスト)

ドイツ人アーティストが見た

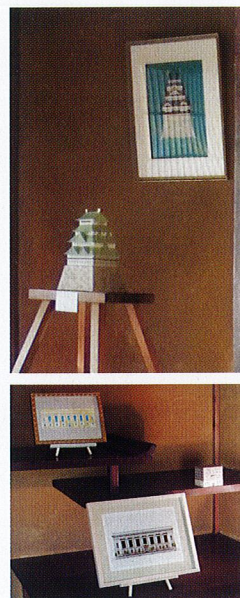
名古屋の近代建築

名古屋には、近代建築の宝物がまだたくさん残っています。第二次世界大戦と敗戦後の復興過程で多くの建築や古い町並みが失われ、今も少しずつ姿を消しています。現在残っている近代建築のなかでも、名古屋市役所本庁舎や名古屋市公会堂のように有名な建物以外は名古屋の人にもほとんど知られておらず、また、そのような知られていない建築の一部は個人の所有物なので、一般に公になっていないので見過ごされがちです。

名古屋の近代建築はドイツの歴史的な町並み(市内中心部)とはまた違い、様々な場所に点在し、他のモダンな町並みとパッチワークのようなコントラストを生み、特殊な存在を示しています。私はそこがまさに日本らしいところだと感じています。ただ、日々出会う町並みを意識して



国の登録有形文化財、旧加藤商会ビル(名古屋市中区)



観察しなければ、このような名古屋の美しさやロマンチックな魅力などを簡単に感じ取ることはできません。古い建築物の前に立つと、憧れのような不思議な気持ちが生じます。そこで営まれた有名無名の人々の暮らしや仕事、その運命までも想像させる古き良き時代への憧憬です。

名古屋の近代建築は、また、日本の近代化の生き証人という側面を強く感じさせます。日本の近代化のスピードを体現し、当時外からきた欧米の影響と国内の文化や伝統的な考え方の矛盾と不安定さを表しています。例えば東区の名古屋市市政資料館の場合、その巨大な赤いレンガ建築と向かい側にある、階建ての和風家屋との強すぎるコントラストは、古い時代に新しい時間が突出しているようです。

近代建築は名古屋だけでなく日本中にありますが、興味を持ってよく見ると、名古屋にしか存在しないロケーションや全国的に見てもユニークな町並みがあります。松重閣門は中川運河と堀川をつなぐボートリフトで、名古屋ではかなり有名なランドマークです。しかし、その裏にある町並みのことはあまり知られていません。この町は名古屋駅と名古屋港をつなぐ中川運河を大正期に名古屋市が計画した時から発展しました。今この町並みは、使い古され、その衰退が見て取れます。この町の人々の暮らしや仕事、人生が、町並みに独特のリズム感を生み出しています。

この町並みのリズムを感じ取ることが出来れば、名古屋の特徴的な美(厳格な美)、ドイツ語では「herbe Schönheit」と表現しますが、その特別な美を見出すことが出来ると思います。

4月22日から榎木館で開催される私たちの展覧会「名古屋浪漫建築散歩」では、100年来、皆さんが毎日出会っていても気づかなかった名古屋の魅力をご覧に入れたいと思います。

クレメンス・メッツラー

クレメンス・メッツラー Clemens Metzler

イラストレーター、グラフィックデザイナー

●1965年ドイツ生まれ、尾張旭市在住。

1992年国立芸術デザイン大学、ハレ(ドイツグラフィックデザイン学科卒業、広告宣伝勤務)フリーランスデザイナーを経て1998年来日、クレメンス・メッツラー・デザイン事務所設立。愛知県芸術大学、大同大学、日本デザイン学院芸術学部講師、名古屋イラストレーターズクラブ会員。

「名古屋浪漫建築散歩」

ドイツ人・日本人クリエイターによる作品展

4/22(水)〜5/6(水・休)

●4/26(日)、29(水・祝)、5/3(日・祝)、5/4(月・祝)、5/5(火・祝)、5/6(水・休) 各日午後1時〜午後2時

「アーティストトーク」

クレメンス・メッツラー、近藤美和による作品解説



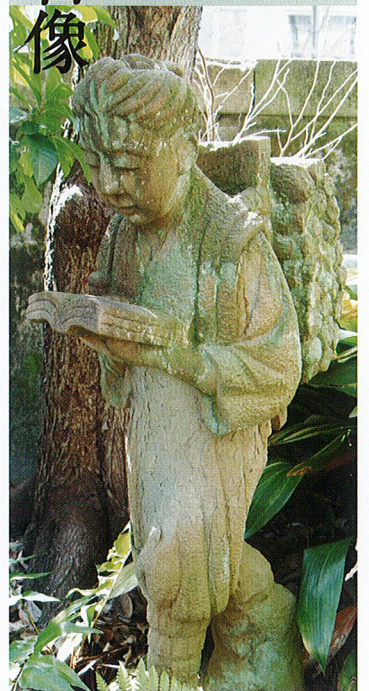
2014年展示、アーティストトーク風景

名古屋の近代建築・歴史建築をモチーフにしてきた「名古屋浪漫建築散歩」。榎木館での展示は今回で3回目。日本とドイツの3人の作家が、イラストレーションとペーパークラフトで浪漫的な建築を表現します。名古屋の文化圏にひっそりと息づくお洒落な建築の世界をお楽しみください。

主催：名古屋浪漫建築作品展実行委員会、文化のみち榎木館

※詳細は、裏面「文化のみち榎木館」催し物暦(4月〜9月)をご覧ください。

二宮 金次郎 の石像



NPO法人 榎木倶楽部 理事長 伊藤喜雄

榎木館の庭園南東隅にひっそりと立つ二宮金次郎の石像は、薪を背負い本を片手に歩きながら読んでいる平均的な1mの金次郎像だ。金次郎（金治郎）は幼名で、天明7年（1787）相模国足柄上郡栢山村（現在の神奈川県小田原市栢山（かやま）の生まれ、名は尊徳（たかのり／さんとく）、身長180cm余、体重94kgあったと言われ当時としては大男になる。足柄下郡の金時山の金太郎に因んだ名だろうか。

榎木館の金次郎像は、もともと榎木館前の榎堂尋常小学校（現在の山吹小学校）校庭西側の奉安殿北隣（現在の西校舎辺り）に立てられたいたものと言われている。いつ頃に立てられたかは不明だが、昭和15年（1940）にはあったので、それ以前になり、同年1月23日の空襲で小学校は焼け、井元家が引き取り庭に移したようだ。



榎木館の庭園にひっそりとたたずむ金次郎像。後ろには山吹小学校の校舎が見える。

金次郎は疲弊した村の中で報徳仕法を説いて勤勉と努力

儉約などで飢饉も乗り越え、多くの農村再建を図った農政家として知られ、名字帯刀を許され、徒士格になる程になった。報徳運動が広がる中、明治37年（1904）頃から国定教科書「尋常小学修身書（道徳）」に、勤勉・孝行・学問・自営の象徴として取り上げられた。大正13年（1924）頃から豊橋市の前芝尋常小学校（現在の前芝小学校）などに金次郎像が立てられ、昭和7年（1932）頃から同15年には盛んに立てられた。豊田佐吉や松下幸之助、御木本幸吉らも金次郎の報徳思想を経営理念の一つとしている。

金次郎像は高さ1mで作られ、子供達に1mを認識させる役目があったと言われたが、どうも量産した時に1mが多かった事からの誤認とされる。戦後は戦時教育に一役買ったとして、GHQ（連合軍総司令部）からの撤去命令があったと言われたが、昭和21年（1946）発行の「円日本銀行券（一円札）」に二宮尊徳（金次郎）の肖像が描かれていることから連合軍司令部からの命令は無かったと思われる。これは井元家洋館に米軍の将校が住んでいた事で解る。金次郎像の情報があればお知らせください。

平成26年度催し物暦（9月～3月）

10/11～10/19

伊勢型紙で彫る
「日本の世界遺産」展



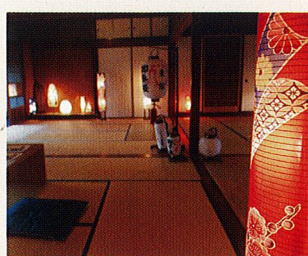
11/19～11/30

「曆十二ヶ月」
小町の名古屋友禅・組紐展



12/10～12/21

名古屋提灯
「美と技の世界」



2/8～3/15

文化のみち 雛巡り
「かわいいお雛様大集合」



3/19～3/29
かく・きる・はる
おもしろく字展



文化のみち 榎木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号・ファックス番号へお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。